

『自立』のステージ

本年度の目指す生徒の姿

- 一歩踏み出した自分を描いて、チャレンジする生徒
- 自分の能力に気づいて、自主的、自律的な学びに価値を見出す生徒
- 協同する価値を見出す生徒

取組の視点

生徒

- 学習意欲を高め、自律的な学びにつなげる
- 自己肯定感の高まりを自主的、自律的な行動につなげる
- 協同の価値を様々な場面で見出す

教職員

- 生徒の能力を過小評価しない
- 原点に戻る（ねらいの意識化・明確化）
- 優先順位、スクラップ&ビルドを意識

努力点	学校自己評価				学校関係者評価
	本年度の具体的方策	評価指標	評価結果	次年度以降への改善策	
学びのある授業	面接指導・報告課題の内容の見直しと改善を図り、知性・徳性の涵養と錬磨に資する自発的な学習が行えるようにする。	生徒アンケートにより、「面接指導の内容がわかりやすかった」の割合が、80%以上(A)、70%以上B、70%未満C 生徒アンケートにより、「報告課題の内容が精選され、添削指導が充実していた」の割合が、80%以上(A)、70%以上B、70%未満C	A	・外部機関への相談や他校との情報交換等の成果も活かして研修会を実施し、報告課題の作成や添削指導のスキルの向上に努める。	○面接指導、レポート添削等、個別指導の充実に努めている姿が窺える。 ○生徒の更なる意欲喚起が課題である。
居がいのある学校生活	創意工夫を生かした行事を計画し、積極的な参加と自主的、実践的な活動を促し、自己有用感の高まりと協同の価値が体感できるようにする。	行事参加者のアンケートにより、「満足した」の割合が、70%以上A、60%以上(B)、50%未満C	B	・生徒が参加しやすく、自己の成長と協同の価値を実感できるような魅力ある行事を企画立案し、積極的に参加を促す。	○コミュニケーションをとることが得意な生徒が在籍する中で、丁寧な指導が実践されている。保護者も高く評価している。
進路や生き方につながる履修計画	生徒が主体的かつ的確に進路特性の吟味や進路目標の設定が行えるよう、ガイダンスの機能の充実を図り、履修に関する時宜に合った有用な情報の提供を行う。	生徒アンケートにより、「進路に関する取組が適切に行われていた」の割合が、80%以上(A)、70%以上B、70%未満C	A	・LHRや進路実現のための体験活動の時間を増やし、生徒の発達段階に応じた、きめ細かなキャリア指導を展開する。	○様々な進路相談に真剣に取り組んでいる様子や、きめ細かく親身になって指導している様子が窺える。
困難な状況の生徒への支援	様々な困難を抱える生徒の立場を理解し、生徒の視点に立った指導や相談を行って、学校生活を送る上での悩みや不安の軽減・解消を目指す。	生徒アンケートにより、「先生が親身になって相談に乗ってくれた」の割合が、80%以上(A)、70%以上B、70%未満C	A	・様々な困難を抱えた生徒への効果的な個別支援を実施すべく、その支援策を練るための体制の構築を図る。	○生徒・保護者が先生方に寄せている信頼は大きいと感じる。 ○生徒の自己実現のためにどうしていったらよいかを親身になってよく対応している。
開かれた学校、外部資源の活用	家庭や地域に向けて積極的に情報発信を行って、外部資源の活用や地域との協働に備える。	保護者アンケートにより、「学校からの連絡や配布物が確実に届いた」の割合が、80%以上(A)、70%以上B、70%未満C	A	・家庭や地域に向けた情報発信が、より双方向的な情報交換・コミュニケーションとなるよう、発信の仕方について検討し、改善を行う。	○生徒アンケートの中に開かれた学校づくりに関する項目が入っているとよかったと思われた。 ○配布物が確実に家庭に届くことは、大変なことであると思った。
安全安心な学習環境の確保	日頃から生徒の様子を十分に観察してコミュニケーションも積極的に図り、相談を要する生徒を早期に発見して、教員間で情報を共有しながら問題の解決に努める。	生徒アンケートにより、「安心して学校生活を送ることができた」の割合が、80%以上(A)、70%以上B、70%未満C	A	・生徒の様子を十分に観察し、学校生活のあらゆる場面で機会を捉えて声かけを行い、学校生活における安心感の維持・向上に努める。	○生徒・保護者の87%が肯定的な回答である。しかし、1件でもいじめがおこることは許されないという姿勢は大切である。 ○未然防止や早期発見への取組は、今後も継続していく必要がある。